

鶴川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

現地視察

平成19年7月14日 室蘭開発建設部 苫小牧河川事務所

鷗川・ピリカ・プロジェクト現地調査 : 平成19年7月14日(土)

名簿

No.	団体名	氏名	出欠
1	ネイチャー研究会inむかわ	小山内 恵子	
2	むかわ柳葉魚を語る会	中井 弘	
3	むかわ町一級河川鷗川愛護協議会	小坂 利政	
4	NPO法人 鷗川・沙流川交流会	相田 準一	
5	むかわ・森・川・海を守り隊	飯岡 孝一	
6	鷗川アイヌ文化伝承保存会	押野 朱美	
7	鷗川アイヌ文化伝承保存会	押野 里架	
8	むかわ町立生田小学校	齊藤 裕子	
9	北海道穂別高等学校	藤田 栄	×
10	鷗川地域協議会	石田 節子	
11	穂別地域協議会	鎌田 政博	
12	鷗川町商工会 青年部	北原 聡夫	
13	穂別苫小牧森林組合	豊岡 義博	
14	胆振東部消防組合消防署鷗川支署	五十嵐 順一	
15	胆振東部消防組合消防署穂別支署	松並 政一	
16	占冠村観光協会	観音 肇	(代理)
17	むかわ町企画課	岡田 信一	
18	占冠村役場総務課	松永 真里	×
19	室蘭土木現業所 苫小牧出張所	棚池 裕治	
20	室蘭開発建設部 苫小牧河川事務所	菅原 秀紀	

バス座席表

		A	B	C	D
					運転席
				録音	録音
1		防災C (江崎)	防災C (宮武)	録音	録音
2		苫河 (安田)	苫河 (大束)	苫河	苫河 (佐々木)
3		相田	自由席	自由席	小坂
4		押野(朱)			押野(里)
5		齊藤			石田
6		小山内(穂 別ダムまで)			松並
7		観音(代理)			豊岡
8		五十嵐			中井
9		鎌田			岡田
10		棚池			菅原
11		治水課 (吉崎)	治水課 (若林)		北原(たんぼ ぼ公園まで)
12		防災C (橋場)	防災C (鎌仲)		

鵜川河口右岸

鵜川河口自然再生事業(参考資料 鵜川河口干潟パンフレット)



位置図

鵜川河口部の現状

鵜川河口の干潟は日本有数のシギ・チドリ等を中心とした渡り鳥の中継基地として、全国の野鳥愛好家に古くから知られており、多くの渡り鳥が休息・採餌場として飛来していた。しかしながら、鵜川河口の干潟は昭和50年代以降の海岸浸食等により年々減少しつつあり、現在は左岸の一部が僅かに存在するのみであり、渡り鳥の中継地としての機能は年々低下している状況にある。



干潟再生事業への取り組み

干潟再生への取り組みとして鵜川河口部の保全のあり方について考えるため「鵜川河口に関する懇談会」(計11回)を平成8年に設け、地元の方々と意見交換を行いながら事業を進めている。



干潟を利用した活動

地域の方々による活動

「鵜川河口に関する懇談会」の提案・提言・意見を具体的に実施する組織として「河口懇談会に携わった方々」、「鵜川に関わり活動している川が好きな方々」が準備会を設け、平成12年8月29日に「わくわくワーク・むかわ」を発足させ、現在様々な活動を展開している。



干潟試験地でのハマナスの移植

河口に飛来する渡り鳥の観察

河川敷での試験植樹

底棲生物の研究

干潟を利用したイベント

平成18年6月3日、4日鵜川河口干潟などで「第5回北海道・川の日ワークショップinむかわ」が開催された。



干潟観察会

鵜川河口左岸



位置図

養浜事業(参考資料 鵜川河口干潟パンフレット)

海岸浸食を防止するため、平成12年10月に鵜川左岸河口部に突堤工の施工を行い、養浜を実施した。また、海岸浸食を防止する対策工について検討を進めている。



養浜実施前

養浜実施後

ムレトイの丘

シシャモの豊漁を祈願するアイヌ民族の儀式、シシャモカムイノミが鵜川河口のムレトイの丘で開かれています。

シシャモカムイノミはシシャモの豊漁を祈願する恒例の行事で古式にのっとりアイヌの神々への祈りと網入れの儀式を行っています。

儀式は、アイヌ語で火の神にささげる祈りなどを行い、祭壇に祭られた火の神や川の神、魚などの神々にお神酒をささげ、鵜川の人々の平和な暮らしを祈願します。女性たちが、感謝の思いを込めて先祖に供物を送る儀式を行い、中央の炉では、くし刺しのシシャモが火であぶられ、神にささげられます。

また、祈りをささげたあとは、鵜川河口で網入れを行い、シシャモの豊漁を祈願します。続く交流会で、アイヌ文化伝承保存会のメンバーが古式舞踊を披露し、伝統行事に花を添えます。

なお、アイヌ文化伝承保存会はアイヌ古式舞踊の保存・伝承活動に努め、平成6年には、国の「重要無形民俗文化財保護団体」に指定され、広く道内外にその事績は高く評価され、アイヌ文化の理解と継承・発展に寄与しています。

出典：苫小牧民報(2001年10月29日)、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構



出典：Boat CLUB 2007.2

たんぽぽ公園



位置図

平成15年8月氾濫状況

(参考資料 平成15年8月台風10号出水について)

鶴川では8月8日に降り出した雨が9日夕方から深夜にかけて激しい雨となり、水位が急激に上昇した。鶴川水位観測所で10日に標高5.59mにまで水位が上昇し、危険水位(4.80m)を大きく超える出水となった。



たんぽぽ公園付近の浸水状況

シシャモ産卵床

鶴川の下流部には、北海道の太平洋沿岸のみに生息し、北海道レッドデータブックの地域個体群に指定されているシシャモの自然産卵床がみられる。

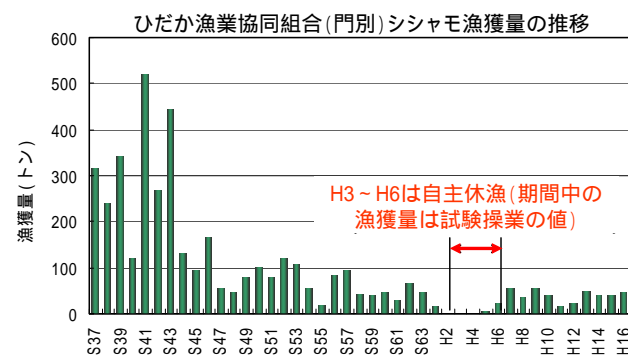


出典:むかわ町



シシャモの生態

- ・全長15cm程度。
- ・沿岸域に生息し産卵期にのみ河川に遡上。通常生後2年で成熟。
- ・産卵後の親魚の多くは死亡するが、一部は生き残り、翌年再び産卵に加わるものもある。
- ・産卵期は10月下旬～12月上旬。短期間に大群で遡上。
- ・卵は粘着卵で、0.5～5mm程度の粗砂・細レキに付着。
- ・受精からふ化までの積算水温は350。
- ・孵化時の仔魚は全長が8mmほどであり、水流に流されて海へ入る。



たんぽぽ公園のイベント

たんぽぽフェスティバル

たんぽぽの群生地であるたんぽぽ公園が黄色いじゅうたんに変わる5月下旬から6月上旬の日曜日に行われるイベント。直径5mのジャンボ鍋の豚汁など盛りだくさんのイベントが繰り広げられます。



たんぽぽフェスティバル

第5回北海道・川の日ワークショップ

平成18年6月3日、4日に“いい川づくり”“防災”“自然体験活動”をテーマに川の活動をしている人たちが発表を行いました。

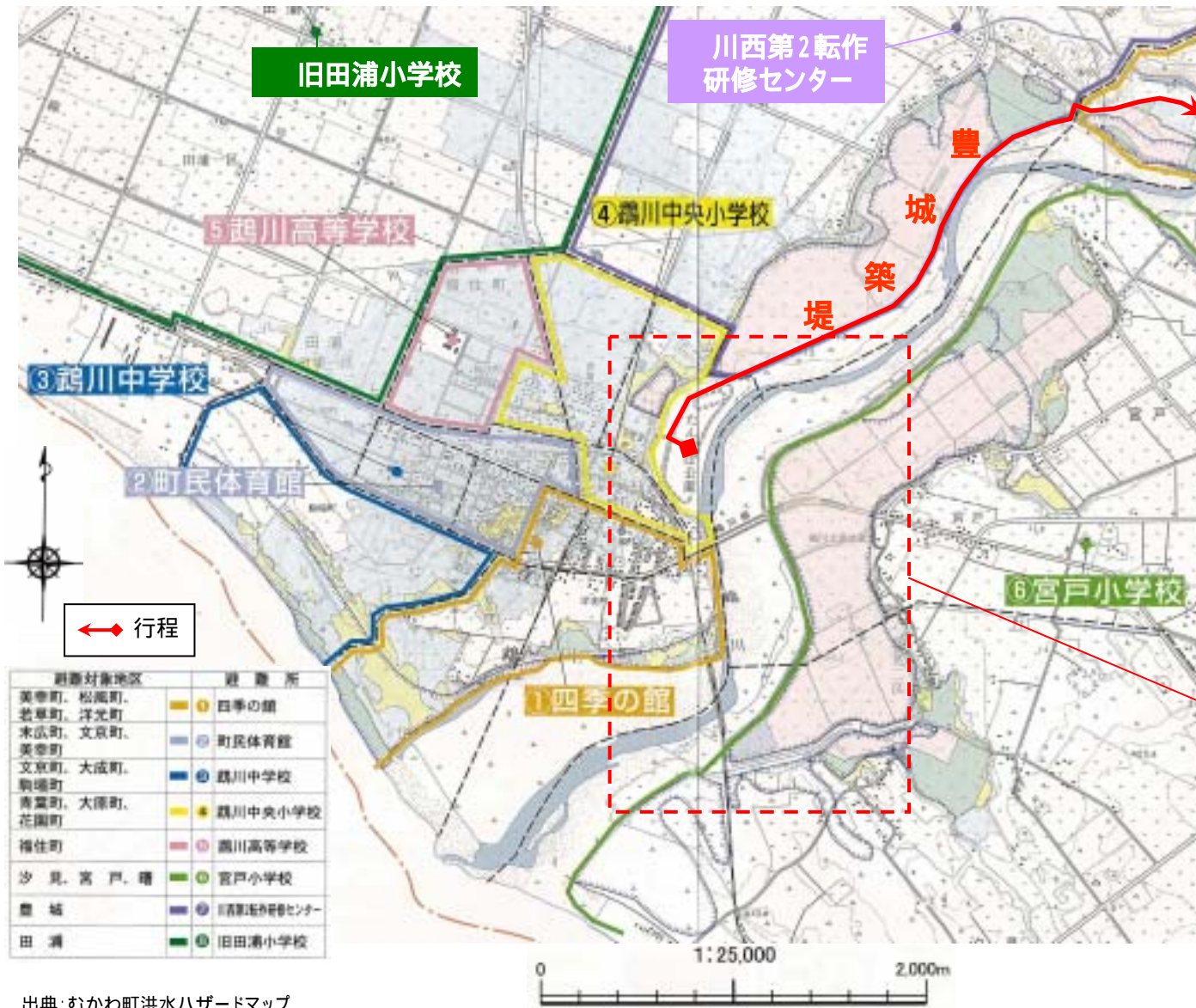
また、カヌー体験、漁船クルーズ、避難体験などの体験も行われました。

出典:第5回川の日ワークショップin鶴川案内パンフレット

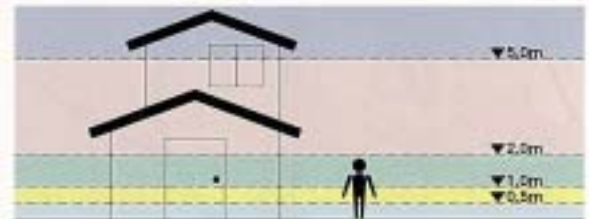


川の日ワークショップ

豊城築堤



浸水深	浸水の目安
5.0m以上	2階の軒下以上が浸水する程度
5.0m	2階の軒下まで浸水する程度
2.0m	1階の軒下まで浸水する程度
1.0m	大人の腰までつかる程度
0.5m	大人の膝までつかる程度



浸水経験のある範囲や土砂災害のおそれのある区域を図示しています。

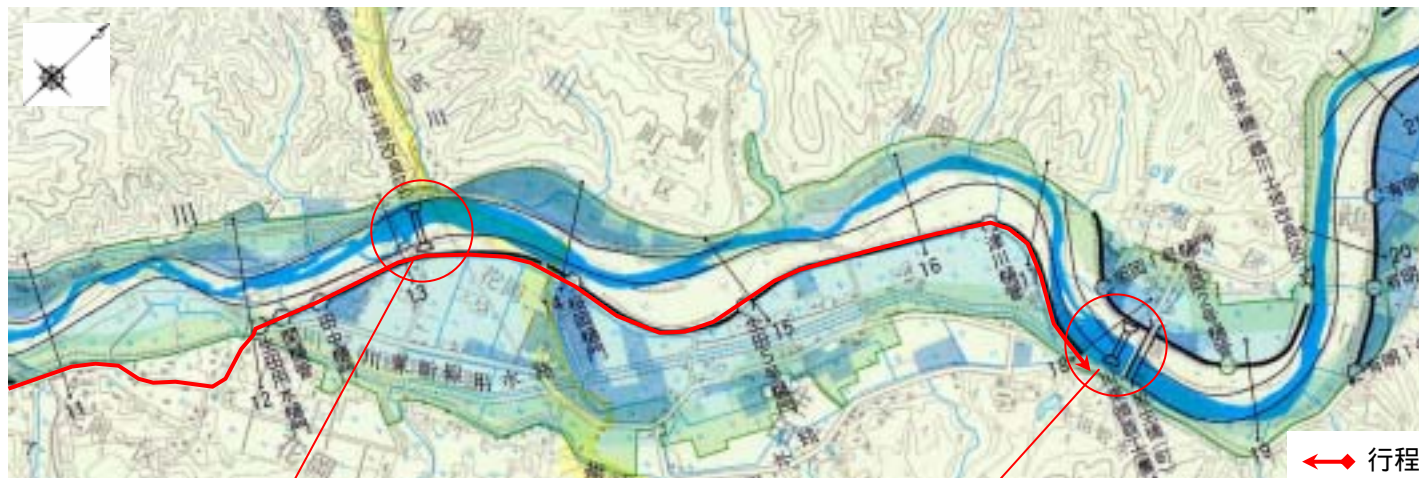
浸水実績 冠水等危険箇所 土石流危険箇所



平成18年8月氾濫状況

出典:むかわ町洪水ハザードマップ

川西頭首工、川東頭首工



位置図

川西頭首工

川西頭首工はかんがい(水田)を目的とした利水施設であり、5月1日から8月29日の期間、鶴川より堰上取水を行い、1,350.05haの水田を潤している。

取水量は約3~7m³/s

出典:1級水系水利権調書



川東頭首工

川東頭首工はかんがい(水田)を目的とした利水施設であり、5月1日から8月29日の期間、鶴川より堰上取水を行い、1,142.74haの水田を潤している。

取水量は約2~5m³/s

出典:1級水系水利権調書



大正時代、川西・川東に取水施設を設置

昭和37年等の洪水で被災

昭和41年に川西、昭和42年に川東頭首工を改築

旧川西頭首工全景



左岸より頭首工及導水門を望む

旧川東頭首工全景



川東導水門取入側(左岸)上流より頭首工を望む

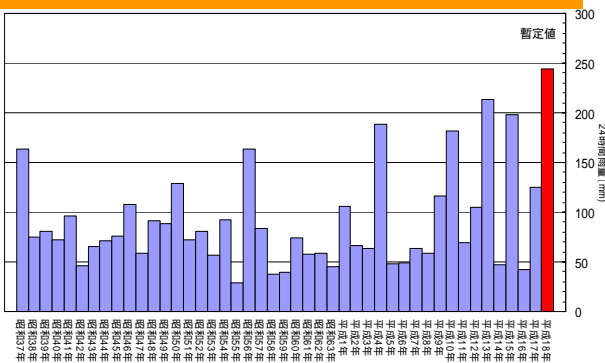
出典:鶴川土地改良区史

有明地区



平成18年8月氾濫状況 (参考資料 平成18年8月洪水(速報版))

平成18年8月18日未明から19日早朝にかけて停滞前線による大雨に見舞われ、鶴川では24時間雨量(鶴川地点における流域の平均)が244mmとなり観測史上最大(24時間雨量)の豪雨となった。下流の鶴川水位観測所では危険水位を超え、約220haの浸水被害が確認された。



有明地区の浸水状況

山地の崩壊



樋門の状況



有明2号樋門呑口(オブスケ川)

仁和



位置図

植樹活動

豊かな森林資源とともに、新しい文化と交流が芽生えることを目的として、1992年に「マザーズ・フォレスト賞」という賞を設立。毎年1回は受賞者のうち何人かを穂別地区に招き、「木を植える権利」による植樹活動と環境にかかわる講演を行っています。

植樹祭の内容

- 開会セレモニー
- 植樹作業
- 記念標柱立柱
- お話のつどい

出典：むかわ町HP、Boat CLUB 2007.2



マザーズ・フォレスト賞
記念公園のモニュメント
出典：Boat CLUB 2007.2



出典：むかわ町HP

アオサギコロニー

穂別地区仁和のカラマツの植林地にアオサギコロニーがあり、2001年の調査ではカラマツ49本に計73巣が確認されている。例年3月10日過ぎに飛来する。

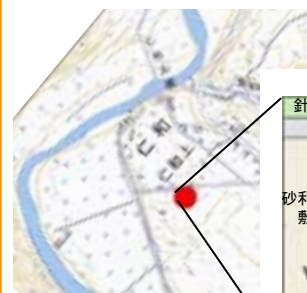
出典：北海道アオサギ研究会HP

むかわ町ではコロニーのあるカラマツ林の土地所有者と借地契約を行い、毎年アオサギの営巣状況を確認するなど営巣地の保護に当たっています。

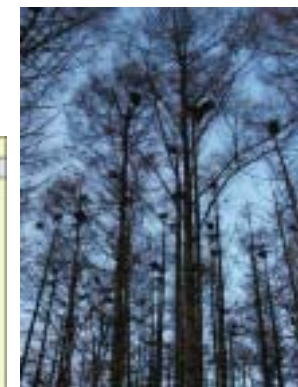
(むかわ町に確認済み)



コロニーの全景(中央の孤立林)



模式図



コロニーの内部

出典：北海道アオサギ研究会HP

アオサギ

日本で見られるサギの中でも最大です。ユーラシアとアフリカの温暖な地域の浅い淡水、特に冬季は沿岸部に住んでいます。

日本では九州以北で繁殖します。巣は、高さ20mより高い木の上で、時には200羽もの集団でコロニーを形成します。

魚、カエル、甲殻類などを長いとがった嘴で上手に捕まえて食べます。

出典：札幌市円山動物園HP



穂別川沿い公園



位置図

むかわ町リバーサイドパーク

概要

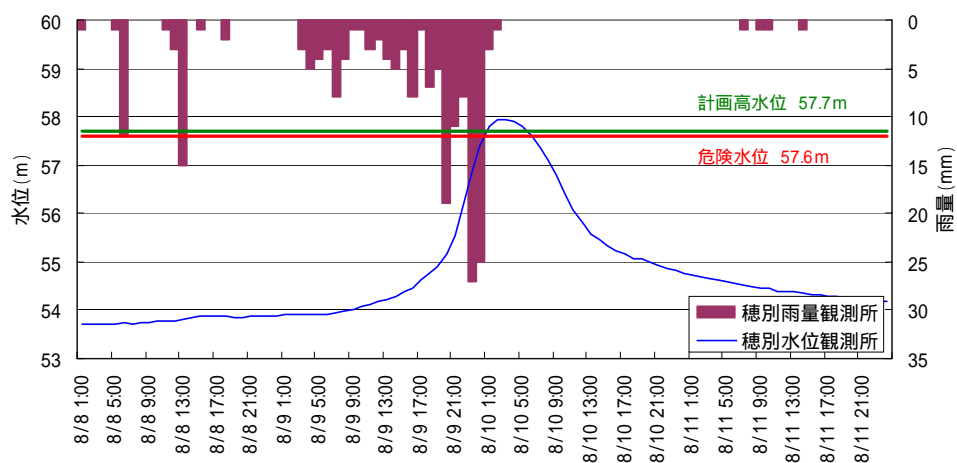
旧穂別町では「人間健康宣言の町づくり計画」(昭和53年～62年)の中で、河川緑地を利用した都市型公園、運動公園の整備が計画されました。これにより、スケートリンク、ゲートボール場などが整備されました。



リバーサイドパーク

平成15年8月氾濫状況(参考資料 平成15年8月台風10号出水について)

鶴川では8月8日に降り出した雨が9日夕方から深夜にかけて激しい雨となり、水位が急激に上昇しました。穂別水位観測所では10日に堤防の高さなどを定める基準である計画高水位を27cm上回る57.97mに達しました。



冠水した町道穂別豊田線



ポンプ車排水状況(穂別1号樋門)

穂別川沿い公園

リバーサイドパークのイベント

穂別流送まつり

造材運搬のため鶴川上流で行っていた流送を、今に伝える、夏の風物詩となっているイベントです
「流送」は、かつて大正時代に林業が盛んであった頃、木材を搬出する手段として行われていました。当時の造材運搬は、山から搬出された丸太をいつも水のつく所に一旦集積し、春の雪しるで河川が増水するのを待って、一気に流出させ下流へと運んでいました。

第24回 穂別流送まつり 平成19年7月28日、29日

7月28日		7月29日	
16時	会場オープン	9時30分	会場オープン
17時	オープニングセレモニー	10時10分	丸太切り大会
17時30分	リバーサイドサウンド	11時	全国人間流送競技大会
	・堀内沙織	13時30分	表彰式
	・Bluck	15時	閉会式
	・嶋 淳一		
20時30分	花火大会		



全国人間流送競技大会

出典：むかわ町HP

Arimori Cup マラソン大会

世界的マラソンランナー有森裕子さんが提唱する「喜びを力に」を基本コンセプトに「くじけず、あきらめず、がんばる」ことの素晴らしさ、大切さを走ることを通して伝えることにより「生きる力」を育むこと、そして心身共に健康な人間形成に資することを目的としています。



穂別高校カヌー体験

穂別高校では鶴川を使いカヌーの授業をしています。穂別のスケートリンク付近から泉まで約5～6kmを下ります。



水辺ウォッチング

水生生物調査

川の中の生き物を調べることで、川の水質を判定する。

簡易水質調査

水質を大まかな数値で判定する。

主観的な調査

簡単に主観で人々がふれあえる河川かどうかを調査する。

魚釣り、投網

川に触れ合うことにより、河川愛護や水質保全に関心を持ってもらう。



水生生物調査



簡易水質調査



主観的な調査
(写真は流速測定)



投網

穂別ダム



位置図

開発の経緯

占冠村、むかわ町を流下する鶴川沿いに拓けた水田は、従来鶴川本流と支流の穂別川、双珠別川その他の溪流から取水していました。戦後の地域開発発展に伴い、かんがい用水が不足するようになり、農業経営の不安を招きました。このため水不足を克服するため穂別ダムの建設に踏み切りました。

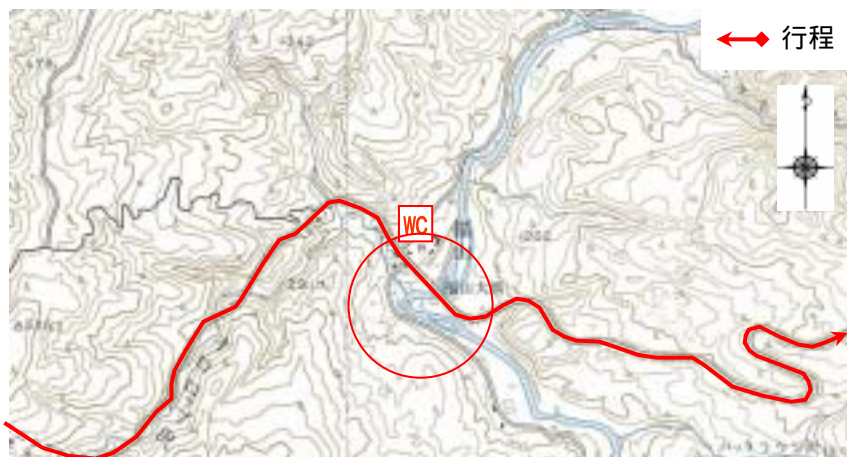
出典：北海道のダム1986

穂別ダム

穂別ダム	
河川	鶴川水系穂別川
目的	かんがい
形式	ロックフィル
堤高	38.2m
堤頂長	283.2m
堤体積	529千 ^m ³
流域面積	70.5km ²
湛水面積	109ha
総貯水容量	10,330千 ^m ³
有効貯水容量	9,060千 ^m ³
ダム事業者	北海道開発局・農水部
着手/竣功	1970/1985



福山大橋



位置図

福山溪谷

国道274号線旧穂別町福山から富内を通して旧穂別町市街地に至る道道610号線を鶴川に沿って南下すると「福山溪谷」があります。穂別地区市街地から約18キロの福山溪谷は、鶴川の両岸に高さ150m程度の絶壁がそそり立ち、蛇紋岩がむき出しになり、白い水しぶきをあげる清流と紅葉のコントラストが見事です。

出典：全国地域観光情報センターHP、HBC北海道放送HP



出典：鶴川・沙流川物語

赤岩青巖峽



位置図

赤岩青巖峽

赤、青などの奇岩・巨岩で織りなす自然の造形が美しい赤岩青巖峽。爽やかな清流と、春はツツジやコブシ、夏は鮮やかな緑の木々、秋は色彩豊かな紅葉など季節ごとに移ろう景観は見事です。

赤岩青巖峽の中心を流れる鶴川は、釣りはもちろん北海道でも有数のラフティングのメッカとして人気があります。また、あちこちに巨岩が点在しているため、ロッククライミングも盛んに行われています。

出典：占冠村HP



出典：鶴川・沙流川物語



出典：占冠村HP

赤岩トンネルの供用開始



夕張新得線(赤岩トンネル工区)と占冠穂別線(旧村道日勝赤岩線)が、平成19年4月9日(月)14:00に供用開始。

これにより、トマム・占冠方面と国道274号を通り札幌に至るルートが現在の22kmから9kmへと13km短縮され、2つの峠が回避される。

出典：旭川土木現業所HP

占冠～砂防ダム



位置図

占冠

占冠村はその94%が森林で、森から流れ出す小さな源流が鵜川となって村の中央を流れています。主な産業は農林業や山菜加工、そしてトマムリゾートやラフティングに代表される観光業です。いずれも、占冠にある豊かな自然を基盤とする産業で、村のキャッチフレーズも「自然体感占冠」です。また、このような山間地でありながら、国道や鉄道が整備され、非常に交通の便がよいことも特徴のひとつ。

出典：占冠村観光協会発行パンフレット



出典：占冠村HP

占冠村を流れる鵜川の赤岩には昭和30年頃まで、夏になるとサクラマスが遡上し、マス獲りは村人の楽しみでした。サクラマスは山女魚が降海し、大型になったもの。しかし、現在ではニジマスなど移入種の放流や、上流部の森の衰退により山女魚が減り、サクラマスの姿は稀にしか見られなくなりました。占冠村観光協会では鵜川にサクラマスを復活させようと、様々な取り組みをはじめています。

出典：占冠村観光協会発行パンフレット



道の駅「自然体感しむかっぶ」



きれいなトイレが評判の占冠村道の駅。その建物内にある「生活情報センター」は、休憩所をかねた情報提供施設です。

概ね6月中旬から10月中旬にはセンター内に観光案内所も設置され、より詳しい道路情報・観光情報を得ることができます。

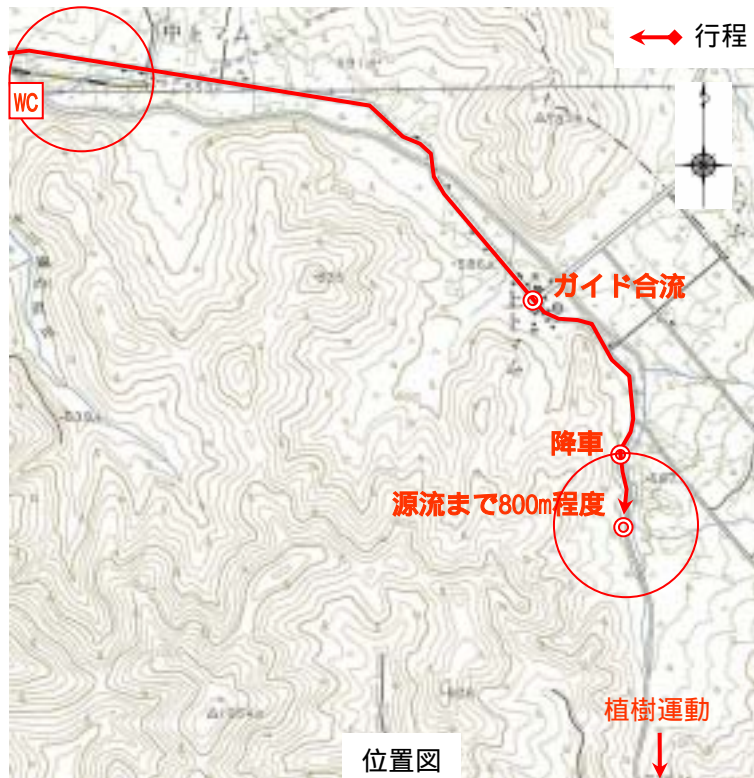
出典：占冠村HP

砂防ダム(堰堤)

鵜川の占冠～トマム間のユウベの沢川合流地点下流側に位置する構造物。



トマム～源流



アルファリゾートトマム



出典：鶴川・沙流川物語

年間を通してリゾートライフを満喫できる本格的なリゾートエリア。広大なエリア内にはシンボルのザ・タワーを含むホテル群を中心に、様々なコースが楽しめるトマムスキー場、自然の地形を活かしたゴルフコースのほか、水の樂園ヴィズスパハウス等があります。また、安藤忠雄氏設計の水の教会では年間を通して結婚式が行われています。

さらに、自然を体験するアクティビティも四季を通して充実。冬はガイド付きで新雪を楽しむオフビステツアーと、イルミネーションが幻想的なアイスドームヴィレッジ、春から夏にかけては山菜ハイキングやフィッシングなどのプログラムが人気を集めています。出典：占冠村HP



出典：占冠村HP

鶴川源流



出典：林野庁北海道森林管理局HP

源流部では、林業活動グループ数団体が積極的に森林づくり活動を行っており、また、

最下流の鶴川町では、漁業協同組合婦人部が中心となって「お魚を殖やす植樹運動」を行っています。

こうした活動を流域単位の活動に広げようと、上流部の北海道森林管理局旭川分局上川南部森林管理署と下流部の北海道森林管理局胆振東部森林管理署が共同で関係団体に呼びかけたところ、上流部の国有林をフィールドとして、上下流関係者による森林づくりが実現しました。

今後、このフィールドを「トマムふれあいの森」に設定し、息の長い森林づくり活動を進めていくこととしています。

(北海道森林管理局胆振東部森林管理署、北海道森林管理局旭川分局上川南部森林管理署)

出典：林野庁国有林HP 平成12年度管理経営に関する基本計画の実施状況